

蒼き三日月の夜

校 長 武井 正明

今年の吉中吹奏楽部が、下越地区吹奏楽コンクールで演奏する曲だ。

この曲は、今や世界のケン・ワタナベが新進気鋭の若手俳優の時代、トレードマークである黒の眼帯で、一気に渡辺謙の名を世に売り出した 1987 年の NHK 大河ドラマ「独眼竜政宗」のモデル、戦国武将、伊達政宗の生涯を描いたものである。

華やかな幼少期を経て、青年時代へ。そして訪れる父親の非業の死。その悲しみに打ち克ち、出陣し三日月を象った黒の鎧兜で激しい戦いを繰り広げる。やがて時空を超え、死を悟り見事な生涯を終える。時は現代へと幕を閉じる、ダイナミックな構成だ。

先週明け、コンクールを控えて、さらに曲を磨く時間を、追加で確保して戴きたい、と 3 年生 11 人が校長室を訪れた。その誰もが、非常に真剣で誠実な眼差しだった。私は、彼らに対して中途半端な回答をするのは、失礼だと思った。

私は、吉中吹奏楽部の大ファンとしてだけではなく、吉田中学校の校長として、現時点で、出来る事と出来ないことを、可能な限り明確に説明させてもらった。

もちろん、素晴らしい演奏ができるように、現状でできることを互いに探りながら考えていきたい、その気持ちは同じである。

そして昨日昼休み、第一体育館で校内発表があった。

この曲の魅力は、太鼓や横笛の和のテイストを、様々な楽器の音色で包み込み、いかに引き立て、ある時は戦いの激しさを表現し、ある時は夜の闇の静けさや不気味さを表現する、というような強弱の妙が問われるところではないだろうか。

15 もある場面展開をメモして演奏鑑賞に臨んだ。

なかでも私の印象に残ったのは、政宗が戦いの決意をし、出陣に臨む場面と、政宗が生涯を終え、幾年も時が流れ、タイムマシンのように一気に時空を超えて現代へという場面の 2 場面であった。

吹部の皆さんは、さらにこれから何度も磨きを掛け、本番に挑むのであろう。

私はその時まで、もっと伊達政宗の生涯を勉強し、「蒼き三日月の夜」を聴き込んで、20 日の新潟テルサに向かおうと思う。

君たちには、思いっきり演奏してもらいたい。

頑張れ一っ!! 吉中吹奏楽部!!

